平成 25 年度　富山県文化審議会
日時　平成 26 年 2 月 24 日（月）13:30～15:30
場所　富山県民会館 401 号室

議事
平成 26 年度における本県文化関係事業の概要について

（会長）　それでは、これより議事に入りたいと思います。本日の議事の進め方につきましては、まず、県から、平成 26 年度に予定している文化関係事業の概要について説明を頂いた後、委員の皆さんから、今後の富山県の文化振興施策の推進について、ご意見を頂きたいと思っておりますのでよろしくお願いします。
　それでは、「平成 26 年度の本県文化関係事業の概要」について、事務局から説明をお願いします。

＜事 務 局 説 明＞

（会長）　ありがとうございました。
　さて、今ほど事務局の説明がありましたが、この説明を踏まえ、文化振興のための施策の推進に関して、皆さんからご意見をさらに伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

（○○委員）　県民会館のことでお聞きしたいのですが、定員 1200 の大ホールは、県庁所在地として非常に大事な施設であると認識しています。改築で、客席の取り換えとありますが、定員を減らしてでも、私は椅子が「さすが県民会館」と言われるような、座り心地の良いもの、良くなったなという形のものにしていただきたいのですが、椅子のそのようなところまで決まっているものなのでしょうか。

（事務局）　はい。現在は椅子の幅が 48cm しかないので、これを 51cm 幅まで、わずか 3cm ですが広げたいと思います。今、県内で一番い広いのは高岡文化ホールで約 52cm、新川もそうだったと思いますが、かなり広く感じると思います。また、幅が広くなるのに伴いまして、今、客席が 1200 とおっしゃいましたが、100 ほど減りまして、1100 となる見込みです。

（○○委員）　実際に来て見てもらうきっかけがないと、芸術文化というのは、いくらいいものがあってもただのものになってしまうのではないかと思います。
　富山は、水墨美術館あり、立山博物館あり、そして今度新しく近代美術館ができる、文学館も新しくなっている。これを新幹線の開業とともに首都圏とどのように結び付けていくかということが非常に大きな問題だと思います。既に首都圏でのいろいろなメディアや

方法を用いた施策を考えられていると思うのですが、その一端でもお知らせ願えれば、もっと前進できるかと思います。

（〇〇委員）　文化は、大人もですが、子どもたちが多くの体験や経験をすることで、後に自主的に関わるようになっていくものだと思うので、子どもたちに文化の種をたくさんまくことにも力を入れていっていただけたらいいかと思います。

富山県のアピールという話ですが、ふとどこかに行きたいと思ったときに、映像を見ると、「あ、こんなところに行きたいな」と思うので、ぜひそういった魅力のある映像や、それを見て「ここはどんなところだろう」と調べたいときは、ネットですぐに検索できるような分かりやすいものが必要なのかなと。分かりやすい、インターネットで見られるものを作っていただけたら、たくさんの方に見ていただけるのではないかと思います。

食文化などでも、富山県でしか食べられないものもアピールしていったらいいと思います。

（〇〇委員）　文化活動、芸術創造、情報発信、さまざまなことが盛り込まれ、魅力的な文化・芸術遺産があるわけですが、それに参加した方々、それから文学館、美術館、その他の施設を利用された方々の声を反映させてさらに機能しやすい、使いやすい施策を考えていただければと思います。

子どもたちに文化や芸術の種をまくことは非常に大事だというお話は、私ももっともと思います。高志の国文学館の事業の中で、小学生への啓蒙活動、教育活動もなさっているということですので、これをさらに広めていただきたいと思います。また、学校単位だけではなく､地域等でも子どもたちに富山の文化芸術等に興味･関心を持ってもらうために、ボランティア、指導者、育成者が身近なところにいれば、子どもたちも、少しのぞいてみようか、参加してみようかと思うことも出てくると思います。

新幹線が開業し、首都圏あるいは全国各地からたくさんの方々が訪れて富山の文化芸術に触れていただくのもよろしいのですが、富山県民が最も親しむことが大事なのではないかと思います。

（〇〇委員）　新しい美術館、博物館のレストランルームにつきまして、全国的なすう勢として、有名シェフや有名ブランドを入れて集客する手法が用いられており、文学館の場合も、大変な集客がされています。新しい美術館は、ぜひ富山の越中料理を味わえる、あるいは薬膳カフェがあって憩えるような、富山に密着した食を紹介するショップもあってほしいと願っております。

併せて、富山にはガラスをはじめ、伝統工芸品の素晴らしい品々がありますから、そういった什器、備品に至るまで富山尽くしで、富山を体感できるようなレストランができれば、新幹線で東京から集客することもできると思います。

（〇〇委員）　今回の県民会館、高岡文化ホール、新川文化ホールの改修についてというご提案を頂き、築 27 年、築 19 年と書いてあるのを見まして、もうそんなにたったのかというのが、私の最初の印象です。中身はもう決まっているのかもしれませんが、照明機材

や音響機材というのは日進月歩ですので、その進歩に合った設備を整えていただければと思います。

日本で最高の最新の機材を県民会館や高岡文化ホール、新川文化ホールに導入するのは無理だと思いますが、進歩を追い掛けるような設備ではなくて、少し前を行くような設備を考えていただければと思いました。

（会長）　私も欧米、特にヨーロッパのホール等には大変古いものもあるけれども、大変新しい機材を用いた公演も導入されているので、何百年たったホールという時代がそのうち来てもいいのではないかと思います。ただし、いつも新しいものがそこで挑戦されるようなものができるといいなと常日頃思っておりますので、今のお話に同感しておりました。

（○○委員）　先ほどから多くの委員が述べられましたが、次世代への投資といいますが、感受性が豊かな時期に若者を育むということで、計画にはとても充実した内容が盛り込まれて、うたわれていました。

ですが、平成 26 年度の予算を見まして、せっかく立派なことがうたわれているのですが、予算が非常に微々たるものであると私は思いました。子どもたちは自分では動けませんので、保護者の理解や学校の全体の組織によって多くの本物に触れることしかできないと思うのです。授業としては出前などが盛られているのですが、やはり本場の会場で、実際に本物に触れることは非常に大事なことだと思うのです。学校単位ではなかなかそれを実行に移せない面があるので、そういった面の補助制度といったものがあれば、学校も積極的に動けるのではないかと思います。

また、これからの子どもたちにはグローバル社会で羽ばたいてほしいと思います。そういったときには、日本の古来の文化を自ら発信できるように、単に見るだけではなく、実際に体験してみる。例えば、茶道や華道にしても、見る機会はあっても実際に行う機会はなかなかないのです。そういうところも、学校現場の方で取り入れようと思えば取り入れられると思います。子どもたちにとってはいい体験になると思っておりますので、そういったソフト面について、よろしくお願いいたします。

（○○委員）　文化施設の利用から見た芸術文化振興に興味を持っておりいろいろとお教え願いたいと思います。文化施設は、さまざまな形の素晴らしいもの、新しいものを利用者に紹介して、皆さんもそれによって満足を得て、出発するという形で、たくさんのことをお知らせしてきました。しかし、大阪や東京などの大都会の方の様子を見ておりますと、最近はさまざまな情報機器等や主催者のスタッフ等によって、多くの方がそういうものをいろいろな形で知るようになると、結局、文化施設を含め、新しいものをお伝えすることについて、一方的に自分たちへ与えられるよりも、自分たちが参加して一緒にやっていく形のものが、都会では多くなってきているという話を聞いております。

本県におかれては、各施設においてもいろいろな新提案をつくり、利用者の皆さまにお伝えし、積極的にお知らせされていますが、一生懸命やっても、片思いのような形になっていて、思いが利用者に伝わらなくて、利用者は、もっと参加した形で、一緒になって企画運営していこうという機運も出てきているような感じがします。

いずれ富山でも自分たちが参加した形のものを何かという声が出てくると思うのです。そういうところで一番接点になるのは、ボランティア関係だと思います。ボランティアも従来は文化施設の補助的な関わり方でしたが、そうではなくて主催者と共に何かをしていくという形のものが将来的にあると思うのです。端的に言いますとボランティアが最初の糸口だと思うのですが、ボランティアの育成、そして行政、主催者、一般利用者、ボランティア、民間が横になった形で全体的に芸術文化の振興を進めていくのだと思うのですが、ボランティアの育成についてはどのようにお考えになっておられるのでしょうか。

（事務局）　ボランティアにつきましては、今、近代美術館、水墨美術館、立山博物館それぞれにおいてボランティア組織を設けておりますが、まだまだいろいろな活動をする余地があるといいますか、もっともっとできるのではないかと考えております。

例えば、解説ボランティア、施設を維持するボランティア、行事に協力していただけるボランティアという形で、現在も協力していただいております。今ほどお話があったように、ボランティアを育成して、そのボランティアが自発的に提案して一緒に美術館、博物館を運営していくことは非常に理想的なことだと思いますので、今後しっかりそういう形になるよう、ボランティアの育成にも力を入れていきたいと思います。

（○○委員）　新近代美術館のことについて、新聞等でもこういうモデルの感じということで、アピールされているかと思うのですが、県民サイドで、利用しやすいスペースというか、そういうものはどうなっているのか、新たな情報があればお知らせいただければと思います。

（○○委員）　富山県利賀芸術公園についてですが、会長にもご支援いただきまして、今、アジアの舞台芸術の拠点にするということで、来月も上海の中央戯劇学院の俳優さん 20 名が来て、利賀で 1 カ月稽古を行います。国としては難しい状況ですが、文化・芸術はそういうものを超えるということで、そういったものをどんどん発信していければと思います。

北陸新幹線もそうですが、2020 年のオリンピックに向けて、やはり東京だけではなくて、国の方も全国の誇れる文化・芸術の拠点をということで、文化庁、国際交流基金等もいろいろ動きがあるようですので、そういった中でもこれを機会に富山県と連携していただければと思っています。

（○○委員）　県の計画ですから、拝見させていただくと、非常にいっぱい盛り込まれておられるのはよく存じ上げているところなのですが、その上で、これは計画としてはいかんともし難いところだと思いますが、実態として抜けがちなところがあるのではないかと思っております。

1 点目は、幅広い県民の参加ということで、若い、何か表現したい、けれども行き場を失っているという学生が、どこで表現したらいいのかということです。ハードを充実させるのは大変結構なことだと思いますが、伸び伸びと主体的に活躍できる運営とかイベントとか、ソフト的なところの充実もぜひご検討いただけるといいかなと思います。

2 点目は、世界に目を向けたプロジェクトが富山県にはたくさんありますが、その一方で、地域に根差した集落単位のコミュニティの文化が今やせ細っていきがちなところが多々あります。地域に根差したコミュニティの文化をどう支えていくかに、県としてどこまで関わっていけるのかというのは、なかなか難しいのですが、そこは見落とせないなと思います。

3 点目ですが、ここにも菅笠の例が載っていますが、実はこの金曜日に菅笠の検討会をやるのですが、県の指定を頂くことは大変ありがたいことなのですが、ただ、現状はかなり厳しいです。それをどこまで県として、自治体とともに支えきれるのかというところも現実としては、菅笠だけではないと思いますが、そういったところも抜け落ちがちなところです。ただこれは計画としてというよりも、実態としてそういうところがあるのではないかと。

（○○委員）　ふるさと文学の参考資料を見ますと、ふるさと文学を深く調べて発表するということがあります。具体的に、高志の国文学館で情景作品コンクールがあり、大変成果が挙がっていることも存じております。ただ、ふるさと文学を深く調べる前に、私は実態から申しますと、ふるさと文学により多くの子どもが親しむということが、ほとんどなされていないのではないかと強く感じています。発達段階の下の学年になりますと、ふるさと文学といってもなかなかイメージが浮かびません。では、大人は浮かぶかといったら、ごくごく趣味的な方しか浮かばない。ということは、深く調べる前に親しむという計画をできる限り具体的に、この年度はこの重点、このジャンルというような具体案として、より広くの子どもさんが親しむ計画をぜひつくっていただけたらなというのが私の要望です。

また、近代美術館についてですが、一般の方たちは、これだけお金をかけて建物を充実するなら、建物だけではなく内容も良くなって、当然、人が来るように工夫されるのだろうと思うのです。そうしますと、美術館の魅力は何なのだろうか。新しくなって、何か変わったもの、きれいなものが付いただけで人が来るのかどうか。

例えば、このイメージ図の椅子の展示。椅子は眺めるものではなくて、最低限、座らなくては全然面白くない。子ども感覚で申しますと、最大感覚には「見る」がないのです。「触れる」ことなのです。子どもの一番基礎として育てなくてはいけないのは触れる感覚で、それが一番大事ですから、触れたり座ったりということを体感的にとにかく入れていただき、子どもが楽しめる企画をしていただきたい。

計画から申しますと、現在の入館者がどれだけ、そして新築によってどれだけ入館者が見込めるかという目標数を出した上で、これだけいいものを造るのだということを一般市民にご提示いただけた方が、「なるほど、いい美術館だ」と思ってもらえると思います。世界に誇る美術館になるような美術館であってほしい、県民が誇れるような美術館になればと思います。

（○○委員）　建物や設備などが大変良くなるようですが、これを富山県だけの宝の持ち腐れにしないで、県外からみえる方に、県民一人一人が、富山にこういういいものがあるよということを大いに宣伝したらいかがかと思います。県民の皆さんの意識をもう少し上げれば、また来県される方が一人でも多くなるかなと思うのです。

「富山に行ったら何かいいものないかな」と言われても、「何やろうか？」と思ったり、いいものがあっても自分たちだけで「ふーん」と思ったりするのでは駄目で、大いに宣伝をする気持ちを持ってもらったらいいと思うのです。

富山のいいところを県外の人にお知らせする、あるいは宣伝する力を、県民と一緒に養っていったらいいのではないかと思いました。

（○○委員）　平成 26 年度文化関係の事業をたくさん見せていただきまして、一県民としては大変期待しております。同時に、自分が関わっていく事業も中にはあるので、広く県民の方々にたくさんのことを伝えて、感じてもらって、広げていけたらという思いもあります。

その中で、特に県民会館の耐震化、改修についてなのですが、会館の老朽化もとても感じていた中での改修なので、本当によかったなと思っております。リニューアルされた県民会館で、利用する私たちが舞台芸術のますますの向上を図っていきたいと思います。特に、新幹線が開通するに当たり、東京と富山が非常に近くなります。私たちが東京にたくさん出かけていろいろなものを吸収してきた時代があったと思うのですが、これからは富山に行ったらこういうものが見られる、こういういい舞台があるということができる環境にあると思うので、ますます頑張っていきたいと思っております。

もう一つ、指導者招へい事業のことなのですが、音楽や舞踊のジャンルで招へいされた講師に指導を受けて、それぞれのジャンルでは受けた人は基礎力がアップしたりするのですが、特に若い人たちでは、さらにそれを極めたいという人もたくさんいるようなので、ますます充実させていただきたいと思います。また、富山県ならではの指導者招へいというのは、流派を超えいろいろな環境の中で、いろいろな先生に出会えるということで、自分たちならではの求めているものに発展させてくれる、とても意義のある事業だと思っております。

（○○委員）　絵は出来上がったものを展示したり、結果、上手に描けた、描けないということがあるかもしれませんが、一番の基本はそのことに取り組むこと、考えたり、表現したりする経験が子どもにとって大切なことで、そのために大人がそういうチャンスをつくり出したり、援助したりすることが大切かと思っています。

美術館の在り方のところで、全体の中身は十分素晴らしいかと思っていますが、運営面での配慮として、アトリエやギャラリーなどの教育普及や創作展示、それから教育機関や市町村との連携ということもありました。何か民間の者にも連携させていただくようなことができないのかなと。学校現場だけではなく、子どもたちには表現する場やいろいろな経験をする場所が必要なのです。それには、ある程度専門家といいますか、子どもの才能を引き出すための指導といったものが必要です。もちろん学校の先生たちは十分なさっていますが、時間が限られているなど制限がたくさんあるでしょうから、何か連携させていただくことができればと思います。

あと、今までの美術館のマークやポスター、マスコットキャラクターなどは継続していかれるのか、それとも新しい美術館に新しい名前が付いて、新しい何かが生まれてくるのかということも、皆さんにどれだけ印象づけられるものができるのかなということも期待

するところです。今までの歴史を踏まえて、新しい美術館への期待は大変大きいと思いますので、ぜひ素晴らしいものであってほしいと思っていますが、印象としては早急だったなということもあります。マスコミでも大変多く取り上げられていますし、椅子のことが新聞に大きく出たときは、私も少しびっくりした感があります。もっと現場の声を聞いていただいて、どのようなことになるのか、よく計画を練っていただければありがたいと思います。

もう一つ、既存の建物の有効利用ということですが、隣にある科学博物館は子どもたちに親しまれてきたので、そことの共存、そして芝生公園があるので、もっと花や緑がたくさんあって、子どもたちが親しめるような施設になればいいなと思います。

（〇〇委員）　私も新幹線が来るのは、都心部から大勢に来ていただけるいいチャンスだと思っています。歴史・文化まちづくりもブラッシュアップされてきて、効果が出てきていると思っています。

現在、各市町村でも進められていますが、富山県ならではの富山湾の恵み、平野部の恵み、山間部の恵みといったテーマで、それぞれの地域の伝統文化を育てていく。

また、富山らしさがあるのは、やはり祭りだと思います。祭りでは、全国的に見ても他県に負けない膨大な数の曳山がありますが、それらがお互いに行き来していない。

祭り、獅子舞も大変素晴らしい各地の祭りがありますが、行ってみようかというところまでは今のところなっていません。地元の人が行かないということは、結局、県外から来た人も、その情報で行く方は少ないのではないかと思います。その辺の情報発信を、先手を打ってどんどんやっていく必要があると思っています。

伝統的な建築に関しても、合掌集落だけではなく、枠の内造りという湿潤な雪に対する強固な構造体があります。木造建築文化については、富山はメッカになり得る要素を持っています。他の地域では木造の伝統的な工法が少なくなっていて、伝えられていません。お隣の新潟や長野などからも、今、富山の木材試験場にいろいろなデータを教えてくれと言ってきています。そのように住文化のメッカになり得る感じがするので、ぜひその辺も強化していただければありがたいと思います。

このことは、山村集落の空き家の活性化にもつながります。県外の方をそこへ呼び込んで住んでもらおうとか、そういったこととも大きな関わりがあります。

それと、芦峅寺の布橋灌頂などいろいろな各施設が整備されてきているのですが、施設だけではなくて、施設周辺の景観の整備をブラッシュアップしないと、その施設だけでというのは魅力が感じられません。芦峅寺、立山博物館の辺にはかつての立山に登拝するための宿坊施設群がありました。その雰囲気は道路沿いに、ファサードだけでもそれなりの雰囲気を醸し出せます。そういったブラッシュアップが必要です。

近代美術館の設備に関しては、素晴らしい椅子のコレクションやポスター、世界に誇れるものがあるのですが、なかなか展示を見られる機会が少ないです。それを一度に公開する、特徴ある近代美術館ができるものと大変喜んでおります。ただ、県外の方や県内の方からよく言われるのは、富山県の歴史文化の博物館がないということです。富山県は全国でも歴史文化の博物館がない数少ない県です。将来的なものとして、近代美術館や県民会館などが終わった後で結構ですので、博物館構想を立てて拠点づくりを行うことも、今後

必要なのではないかと思います。

（〇〇委員）　私は今の日本全国の動向や世界的な文化政策の動きについて研究しておりますので、その流れに沿う形で、富山でどのようなことを今後企画されればいいかと、皆さまからのご意見を拝聴しながら考えておりました。それを簡単に幾つかの点で申し上げたいと思います。

一つは、歴史文化・伝統というものの価値につきましては、世界的に文化的伝統の価値というものに関する再評価が進んでおり、多くの地域で環境破壊などいろいろなことが進む中で、あらためてわれわれがつくり上げてきた伝統文化というものは、自然と人間が共生するという意味で、非常に価値のあるものだということが、今、発見されつつあります。

日本の建築の良さがあらためて今、注目されております。建築の良さを評価しはじめますと、住居の良さというものも評価されてまいりますし、住居の良さが評価されますと、その中に配置されていた工芸品が全て単なる単品ではなくて、一つのまとまった、いわば文化として、生活の中の文化として認識されてまいります。

そうしますと、職人文化というものと、生活文化というものが伝統文化の中で高く評価され、日本の生活文化の質の高さというものが、伝統的な生活様式の中でいかに高い水準であるかということが認識されつつあります。今、経済産業省がクールジャパンを推進しています。国際的に日本のライフスタイルや生活様式が今、国際的に大変高く評価されており、アジアの地域に日本の水管理方式が輸出されつつあります。

全体としまして、日本の伝統文化の中に、現在に生かせる価値のあるものを発見して、これを凝縮して展示する。これがつまり博物館です。広範囲にあるものを凝縮して展示してこそ、そこに質の高いものが、皆さま方にまとまった形で頭に入れていただけます。本物を子どもたちに触れさせることこそが真の文化であると思います。

子どもたちが生活する空間というものは総じて住居と学校で、これはまちづくりという形でまとめることもできますが、それぞれの地域あるいはそれぞれの住居や学校の良さも生かしつつ、まちとしてどういう景観をつくるかということが非常に重要な意味を持ってきます。そういう意味では、景観政策というものが文化政策として非常に重要である。

景観政策の中に、美術館、博物館を位置付けるとか、そういう文化施設的なものが一つの柱となってまいります。

もう一つの柱は、言うまでもなく富山の場合は工芸産業です。工芸産業のまちというのが富山の特徴だと思います。残念ながらだいぶ空洞化しており、これは大変なのですが、ぜひとも再生していただきたい。そこで家や工房というものがそれなりに保存され、体験工房として多くの方々を新幹線でお招きすることができると、富山の文化政策は急激に発展するのではないかと思います。

その基盤づくりに関しては、本日の資料にもございますように、本当によくやられたのではないかと思います。文化というものを産業文化の領域にまで広げてやっておられる県はほとんどございません。大抵は文化施設を造ることが文化政策だといわれているわけですが、富山県は最初から産業政策が入っており、文化政策としての展開の場としては、日本の一つのモデルになっているのではないかと思います。

もう一歩これを進めるための課題は、伝統的な文化をどのようにわれわれが面的に展開

して、凝縮した形で表現する場をつくるかということです。魅力ある空間としての富山というものを生み出して、全世界からたくさんの方々に来ていただくことによって、定住人口と交流人口の比率を改善していく必要があります。

全体としての地域発展は、交流人口と定住人口の交流なしには発展しません。このバランスがうまく取れると両方とも発展します。今のところ日本の各地で実践されている幾つかの地域で、それはそれで成功しています。しかし、中都市、大都市ではどんどん人口が減るばかりで補うことができていません。これは、まちの魅力の創出に失敗しているからだと思います。ただ、京都は例外で、定住人口も交流人口も多いです。

それを克服するための手法として、今、注目されているのは信託制度です。空き家が出てきたときに、これを活用しようと思いますと、所有者がいて買い上げてしまうことはできません。一番いい方法は、空き家を地域の人々が、例えば産官学の連携で、信頼ある存在の信託､受け皿をつくっていただくと､多くの方は安心して空き家を提供してくれます。その空き家を積極的にまちづくりに生かしていらっしゃるところはたくさんあります。

これは、会社をつくってやろうと思うとなかなか難しいですが、いずれはそういう制度がきちんとできて、信託財産を地域のネットワークで総合的に管理しながら、地域再生を図るということが必ずできてくると思います。今は一部の地域で相互の信頼関係でやっておりまして、まだまだ小さな規模ですが、おそらくこれからは大きな規模でそういうことが可能になるのではないかと思います。町家と称する空き家の再生が、まちごと再生を図る上では、非常に重要ではないかと思います。